

## 衛生法規に関する知識

問1 クリーニング業法に関する次の記述の（ ）に入る語句を、下の語群ア～シの中から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

クリーニング業法は、クリーニング業に対して、（ ① ）等の見地から必要な指導及び取締りを行い、もってその経営を公共の福祉に適合させるとともに、（ ② ）の利益の擁護を図ることを目的とする。

クリーニング業法で「クリーニング業」とは、溶剤又は（ ③ ）を使用して、衣類その他の繊維製品又は（ ④ ）を原型のまま洗たくすることを営業とすることをいう。

クリーニング所を開設しようとする者は、厚生労働省令の定めるところにより、クリーニング所の位置、（ ⑤ ）及び従事者数並びにクリーニング師の氏名その他必要な事項をあらかじめ都道府県知事（保健所設置市は市長、特別区は区長）に届け出なければならない。

<語群>

ア 営業時間	イ 処理	ウ 営業者
エ 皮革製品	オ 利用者	カ 公衆衛生
キ 水	ク リネン類	ケ 構造設備
コ 環境保全	サ 洗剤	シ 化学製品

問2 クリーニング業において、消毒が必要とされているものを、次のア～コの中から5つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

ア ワイシャツ	イ パンツ（下着）	ウ ゴミ箱	エ 手袋
オ おむつ	カ タオル	キ 病院の患者が使用した寝具	
ク 帽子	ケ ズボン	コ 手ぬぐい	

問3 次の説明文について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解

答欄に記入しなさい。

- (1) おしぼりを使用させるために貸与し、その使用済み後はこれを回収して洗濯し、さらにこれを貸与することを繰り返して行うことは、クリーニング業である。
- (2) 洗濯物の受取及び引渡しのみ行う施設は、クリーニング所ではない。
- (3) クリーニング所の業務に従事するクリーニング師は、業務に従事した後3年以内にクリーニング業法の規定による研修を受ける必要がある。
- (4) 洗濯物の受取及び引渡しのみを行う施設には、クリーニング師を置かなくてもよい。
- (5) クリーニング所を使用するためには、届出するだけでよい。

問4 次の説明文について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) クリーニング師の免許は、厚生労働大臣がクリーニング師試験に合格した者に与える。
- (2) 営業者は、クリーニング師の免許があれば、クリーニング所以外においても、営業として洗濯物の処理を行うことができる。
- (3) クリーニング所には、脱水機の効用をも有する洗濯機があつたとしても、専用の脱水機を少なくとも1台備えなければならない。
- (4) クリーニング所の洗い場の床は、コンクリートや畳等で築造されていなければならない。
- (5) 営業者が守らなければならない規定は、全国どこの都道府県でも同じである。

## 公衆衛生に関する知識

問5 次の説明文について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) 引火性溶剤を用いないドライクリーニングを営む工場は、建築基準法における立地の制限は無い。
- (2) クリーニング業で使用される「テトラクロロエチレン」や「フッ素系溶剤」は、水質汚濁防止法における有害物質である。
- (3) 産業廃棄物の排出事業者は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、前年度1年間のマニフェストの交付等の状況を市町村長に提出しなければならない。
- (4) P R T R制度とは、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律に基づく環境汚染物質の排出移動登録制度のことである。
- (5) 有機溶剤のうち、ドライクリーニングに用いられているテトラクロロエチレンには、労働安全衛生法に基づく「有機溶剤中毒予防規則」が適用される。

問6 「クリーニング所における衛生管理要領」について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) 照明器具は少なくとも1年に1回以上清掃するとともに、常に適正な照度維持に努めること。
- (2) ランドリー処理の本洗には、60℃以上の温水を使用することが望ましい。
- (3) 営業者は従業員が結核にかかった時は出勤を禁止するのみで保健所に届ける必要はない。
- (4) ランドリー処理に使用する水は、水道法に基づく水質基準に適合する水であることが望ましい。
- (5) 洗濯物を60℃以上の熱湯で10分間以上処理する工程を含むものは、消毒効果を有する洗濯方法である。

問7 次の語句の組み合わせのうち、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) フロン類 — オゾン層破壊
- (2) 蒸気による消毒方法 — 80℃以上の蒸気に10分間以上触れさせる
- (3) VOC — テトラクロロエチレン
- (4) 経口感染の予防策 — 手洗い
- (5) ジカウイルス感染症 — 蚊媒介性

問8 「クリーニング所における衛生管理要領」における「指定洗濯物の一般的な消毒方法及び消毒効果を有する洗濯方法の概要」の説明文について、( ① ) ～ ( ⑤ ) に入る語句を次のページの語群ア～シの中から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

(ア) 塩素剤による消毒

さらし粉、次亜塩素酸ナトリウム等を使用し、その遊離塩素 250ppm 以上の水溶液中に ( ① ) 以上浸すこと。(この場合終末遊離塩素が 100ppm を下らないこと。)

(イ) 界面活性剤による消毒

逆性石けん液、両性界面活性剤等の殺菌効果のある界面活性剤を使用し、その適正希釈水溶液中に ( ② ) 以上浸すこと。

(ウ) ホルムアルデヒドガスによる消毒

あらかじめ真空にした装置に容積 1m<sup>3</sup>につきホルムアルデヒド 6g 以上及び水 40g 以上を同時に蒸発させ、密閉したまま ( ③ ) 以上触れさせること。

(エ) 酸化エチレンガスによる消毒

あらかじめ真空にした装置に酸化エチレンガス及び炭酸ガスを 1対9 に混合したものを注入し、大気圧に戻し ( ④ ) 以上触れさせるか、又は 1kg/cm<sup>2</sup> まで加圧し ( ⑤ ) 以上触れさせること。

<語群>

ア	30℃以上で 5 分間	イ	30℃以上で 10 分間
ウ	30℃以上で 20 分間	エ	30℃以上で 30 分間
オ	40℃以上で 30 分間	カ	40℃以上で 1 時間
キ	50℃以上で 1 時間	ク	50℃以上で 2 時間
ケ	60℃以上で 1 時間	コ	60℃以上で 2 時間
サ	70℃以上で 2 時間	シ	70℃以上で 3 時間

## 洗たく物の処理に関する知識

問9 次の説明文について、当てはまるものを下の語群ア～コの中から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

- (1) 皮革のクリーニングは、主に石油系溶剤又は ( ① ) を使用する。
- (2) 水洗いすると縮んだり形くずれしたり色が落ちたりするような衣料品を、有機溶剤を用いて洗浄する方法を ( ② ) という。
- (3) 石油系溶剤の残留に起因する皮ふ障害を「化学やけど」といい、防止するためには十分に ( ③ ) を行うことが必要である。
- (4) 和服のクリーニングで、着物をほどこき、反物状にして水洗いした後、湯のしをして仕立て直すことを ( ④ ) という。
- (5) 布に折り目やヒダをつける加工を ( ⑤ ) 加工という。

<語群>

ア	ウエットクリーニング	イ	生洗い	ウ	ドライクリーニング
エ	ブラッシング	オ	洗い張り	カ	テトラクロロエチレン
キ	ベンジン	ク	乾燥	ケ	プリーツ
コ	コーティング				

問10 次の説明文について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) ドライクリーニング溶剤であるテトラクロロエチレンは、使用后、地下への浸透により排水しなければならない。
- (2) しみ抜きの手順は、まず油性のしみ抜きをするのが基本である。
- (3) 生成り（きなり）製品は漂白も蛍光増白処理もされていないため、高温で洗濯するのが望ましい。

- (4) 予洗とは、繊維、汚れ、糊などを膨張させ、汚れを取りやすくし、洗剤の浸透を助けるため、必ず行う必要がある。
- (5) シリコン系やふっ素系はっ水剤などを用いて、水をはじき、中ににじみ込むことを防ぐ加工を、ラミネート加工という。

問 1 1 繊維に関する次の説明文について、【     】のうち正しい方を選び、解答欄にAまたはBを記入しなさい。

- (1) 【 A. ポリエステル     B. ナイロン 】は世界最初の合成繊維である。  
熱に弱く日光やガスなどによって黄変する。
- (2) アクリルは、ビリングが出やすく熱に弱いので、タンブル乾燥は【 A. 60℃     B. 30℃ 】以下にすることが望ましい。
- (3) 【 A. カシミア     B. アルパカ 】は中国、中央アジア、中近東などの高地に住む山羊の毛である。絹のような光沢と柔軟で独特のぬめりがあり、軽くて温かい。
- (4) 【 A. アセテート     B. ケナフ 】はセルロースに酢酸が結合した繊維であり、絹に似た光沢と深みのある鮮明な発光が特長である。
- (5) 【 A. 麻     B. 綿 】は天然植物の中で最も多く消費される繊維であり、吸収性があり丈夫なため、シーツやタオル等に利用されている。

問 1 2 次の説明文について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) メタ珪酸ナトリウムは汚れの酸性を中和し、硬水を軟化し、繊維や汚れを膨潤させ、洗濯液をアルカリ性に維持する働きがあり、洗剤の洗浄力を著しく増強させる効果（ビルダー効果）があるため、アルカリ助剤として洗剤と併用される。

- (2) 漂白剤の中で、次亜塩素酸ナトリウムは低温で漂白効果があるため、絹、毛、ナイロン、ポリウレタン、染色物に使用できる。
- (3) アニオン系洗剤にカチオン系洗剤を併用するとイオン結合を起こして本来の効能が相殺されてしまう。
- (4) 不溶性のシミは、霧吹きをかけて生地よりもシミのほうが水分を早く吸収するかどうかで見分ける。
- (5) アクリルボタン（メタクリル酸樹脂）は、耐薬品性が強く、熱にも強い。